



写真-1 自然史フェスティバル2023でのシンポジウム風景(2023.11.19)

万博工事の遅れについては、昨年秋ごろから毎日のようにメディアに取り上げられるようになり、土地の特異性などは周知されるようになった。が、夢洲のもつ自然回復へのポテンシャルに言及してくれるところは稀である。私たちは9月初め取材を受け、東洋経済オンラインにかなりしっかりした記事が掲載された。その後なかなか当協会の主張を取り上げてくれるメディアはない。

IR事業者による夢洲3区(IR予定地)の環境アセスメント準備書が公示され、意見募集が行われた。私たちは調査データ等、多くの情報を大阪市に提供していたが、環境アセス準備書において参考資料には加えられていなかった。

夢洲の生きもの調査を始めて5年目、すでに夢洲ではほとんどの自然環境が開発されてしまった。が、それでも季節が来れば野鳥たちが訪れる。自由な調査ではなくなったが、私たちは大阪港湾局・万博協会と共に1か月に一度程度、夢洲を訪れている。

2023年11月、ソリハシセイタカシギ(P.10の写真参照)が3羽、夢洲2区の残っている湿地部分に来ていた。日本にはめったに来ない旅鳥で、大きく反った嘴、大きく美しい姿はバードウォッチャーに

人気の鳥である。すぐに発表を考えたが、だれもが自由に見ることのできない区域ゆえ、ネットで発信は見送った。

万博・IR計画の地盤改良工事でほとんど自然が無くなったとはいえ、それでも夢洲の一角には、まだ広大な「人間に使われていない場所」が残っている。そしてこのように野鳥たちはたくましく利用している。今の地球環境を考えれば、この人間が利用しない「何もない場所」がどんなに大切か、経済効率では計り知れないはずだが…。と、夢洲の未来を考え、大阪湾岸からの生物多様性を目指すことを目標に、走り切った2023年だった。簡単に報告する。

◆写真展は巡回中。8月急遽決まって開催した「きしわだ自然資料館」の写真展(9/9-10/1 :パネル18枚+日本画8枚)は、そのまま万博記念公園の自然観察学習館へ11/21-12/5に巡回。同じ内容で今度は2/17-4/7に和歌山県立自然博物館へと巡回する。ミニ写真展「夢洲の湿地の渡り鳥」は、12/22-1/17阿倍野図書館、2/3-3/31には2度目の東淀川図書館、3/22-4/17東住吉図書館へと巡回して、一般市民への認知度を上げる取り組みを続けている。



写真-2 万博記念公園自然観察学習館実習室での写真展(2023.11.21-12.5)

◆11月19日、大阪自然史フェスティバル2023にてシンポジウム「OSAKAベイエリアに、いのち輝く自然を取り戻すために」を主催。7月ごろから自然史博物館佐久間学芸員に相談。「大阪湾岸の自然回復を夢洲から」というテーマに沿って、プログラム・講師などを東京3団体とも相談し手配した。メインテーマのあぶり出しとして、再来年の国際シンポジウム開催を見据え、バードライフインターナショナルのリチャード・グリメットさんからビデオレターをいただき、当協会内での翻訳・字幕で上映。それについては、日本野鳥の会・バードライフインターナショナル東京のみなさんにご尽力いただいた。シンポジウム全体の内容については、「都市と自然」次号にて、山西氏・夏原会長他によるパネルディスカッションなど含め、パネリストのおひとり、IUCN日本事務局長の渡邊綱男氏に執筆いただき特集する予定。また大阪市立自然史博物館のYouTubeで今年秋ごろまで動画アーカイブが視聴可能。 (「自然史フェスティバル2003シンポジウム」で検索)

◆11月22日、大阪市議会に陳情書を提出。内容は、万博アセスでの市長意見と市の開発計画の矛盾を指摘し、改めて2022年2月に示された万博アセスに対する市長意見の趣旨をいかした夢洲の生きものの保全・創出の実行を要請した。陳情書提出前、関係する市議員へ内容の丁寧な説明を行ったが、12月6日の都市経済委員会では継続審議となった。今後も引き続き関係議員へ働きかけ、夢洲の自然再興へとつなげていきたい。

参考(垣井):市長意見は博覧会協会に「夢洲の多様な自然を保全・創出すること」を求めているが、大阪市自身が、この場所を地盤改良工事で損なっており、昨年の監査請求では「地盤改良後に保全・創出が可能である」から不当で無いとして棄却されたが、その後の博覧会協会の「保全・創出」は全く不十分なものになる見込みで、しかも、万博終了後は、博覧会協会が不十分としても保全・創出した自然を、大阪市が環境拠点として埋め立てる計画になっている。

今後の動きと皆様へのお願い

2月7日から4月7日までは和歌山県立自然博物館での写真展をはじめ、大阪市立図書館でのミニ写真展や、5月11日から19日には天王寺動物園のホールで大阪湾岸の自然保護をめざしているグループとコラボしての写真展を企画中です。また東京3団体と野鳥の会大阪支部と協力して大阪府市との対話を続け、2025年には大規模なシンポジウムを開催する計画などがあります。保全協会にとっても、大阪の自然保護にとっても、次年度は大きな転機となるかもしれません。ぜひ、ご参加ご協力をお願いいたします。

元旦に発生した能登半島大震災で被災された皆様に心よりのお見舞いと一刻も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

巨大地震は他人事ではありません。夢洲を巡る計画の中に、南海トラフ巨大地震を常に中心に想定すべきと認識されました。

